(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第4931459号
(P4931459)

(45)発行日　平成24年5月16日(2012.5.16)　(24)登録日　平成24年2月24日(2012.2.24)

(51)Int.Cl.　F I
B65D 33/38 (2006.01)　B65D 33/38
B65D 33/16 (2006.01)　B65D 33/16

請求項の数 4　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願2006-105722 (P2006-105722)
(22)出願日　平成18年4月6日 (2006.4.6)
(65)公開番号　特開2007-276830 (P2007-276830A)
(43)公開日　平成19年10月25日 (2007.10.25)
審査請求日　平成21年3月11日 (2009.3.11)

(73)特許権者　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　100076532
弁理士　羽鳥　修
(74)代理人　100101292
弁理士　松嶋　善之
(74)代理人　100107205
弁理士　前田　秀一
(72)発明者　岩坪　貢
東京都墨田区文花２－１－３　花王株式会社研究所内

審査官　戸田　耕太郎

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ノズル付き容器

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも２枚のフィルムを重ね合わせて周縁部分を接合することにより袋状に形成されると共に詰替え用の内容物を収容する詰替え用パウチから、容器の注出ノズルを介して内容物を容器に詰替える際に用いる詰替え口部材が、注出ノズルを備える容器の注出ノズルの外周面に沿って着脱可能に装着されているノズル付き容器であって、
前記詰替え口部材は、前記詰替え用パウチの注出口部の内部に着脱可能な部材からなり、前記注出口部に挿入されて前記注出口部を筒状の立体形状に保持する保形剛性を備えており、且つ前記容器の注出ノズルの外周面に沿った筒形状を有するノズル付き容器。
【請求項２】
前記詰替え口部材は、前記容器の注出ノズルの外周面と前記詰替え用パウチの注出口部の内周面との間に密着部を形成するように、周方向の少なくとも一部の軸方向に延在し周方向に伸縮可能な伸縮部を備えている請求項１記載のノズル付き容器。
【請求項３】
前記詰替え口部材は、挿入方向後方側の開口縁部から外側に張り出して係止フランジが設けられており、該係止フランジは、前記注出口部に挿入される際に、前記注出口部の先端に形成した注出開口の開口縁部に当接係止される請求項１又は２記載のノズル付き容器。
【請求項４】
請求項１～３のいずれか１項に記載のノズル付き容器の注出ノズルに装着されている詰

替え口部材を用いた内容物の詰替え方法であって、前記詰替え用パウチの前記注出口部の先端部分を切り取ることによって注出開口を形成した後に、該注出開口を介して前記詰替え口部材を前記注出口部の内側に挿入配置し、前記容器の注出ノズルを前記詰替え口部材に挿入してこれの外周面を前記詰替え口部材の内周面に密着させると共に、前記詰替え用パウチを傾けることにより、収容された詰替え用の内容物を前記注出ノズルを介して前記容器に注出する内容物の詰替え方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、注出ノズルを備える容器に内容物を詰替える際に、詰替え用パウチの注出口部に取り付けて用いる詰替え口部材がセットされたノズル付き容器、及び該詰替え口部材を用いた内容物の詰替え方法に関する。

【背景技術】

【０００２】

近年、環境への配慮等から、例えば液体、粘体、粉体等の流動性を有する内容物を収容したボトル容器や注出容器等においては、内容物を使い切った後も廃棄することなく、内容物を詰替えながら長期間に亘って使用することが望まれている。これらの容器に詰替えるための内容物を収容した詰替え用容器として、パウチが多用されている。詰替え用パウチは、例えば２枚の側壁フィルムを、好ましくは自立性を付与するために底壁フィルムを挟み込みつつ重ね合わせると共に、周縁部分をシールして簡易な袋状の容器として形成されるものであり、収容された内容物を、周縁部分に設けた注出口部の先端部分を切り取ることによって形成した注出開口から容器に注出させるようになっている。

【０００３】

また、ボトル容器などへの移替えを容易に行えるようにした詰替え用パウチとして、例えば、特許文献１のように注出開口に補強部材を熱接着した詰替え用パウチや、特許文献２のように容器のノズル受け部をパウチに接着した詰替え用パウチによって、注出ノズルを備える容器への詰替えを手放しで行えるようにしたものも開発されている。

【０００４】

一方、液体、粘体、粉体等の流動性を有する内容物を収容した容器から、ポイントを定めて所望の位置に精度良く内容物を注出させるには、容器に注出ノズルを設けると共に、この注出ノズルの断面を先端に向けて絞っておくことが好ましい。このため、注出ノズルを例えば先細り形状に形成することが行われている（例えば、特許文献３参照）。

【特許文献１】特開平１１－７９１９５号公報

【特許文献２】特開２００３－２６７４０３号公報

【特許文献３】特開２０００－１２８２０７号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

注出ノズルを備える容器に詰替え用パウチから内容物を詰替える場合、例えば注出ノズルが一体成形されたキャップ等が容器本体の口首部から取り外し困難に取着され、容器本体の上端開口を介して内容物を移し替える作業ができない場合は、容器本体に注出ノズルを取り付けたままの状態で、当該注出ノズルを介して詰替え用パウチから容器本体へ内容物の詰替えを行うことが求められている。

【０００６】

しかしながら、注出ノズルを介して詰替え用パウチから容器本体へ内容物を詰替えようとしても、特に注出ノズルが、先端に向けて断面積を絞った先細り形状を有している場合には、詰替え用パウチの注出開口から内容物を容器に流入させることが難しい。また、容器の注出ノズルを詰替え用パウチの注出開口へ挿入することは、注出開口も小さい上に、注出開口の周囲の部分は変形し易いため困難であり、仮に注出ノズルを詰替え用パウチの注出開口へ挿入し、又は連結状態にすることができたとしても、連結部分に隙間ができや

すく、連結状態も不安定であるため、詰替え作業中に内容物がこぼれ落ちたり、隙間から漏れ出たりする虞がある。

【０００７】

さらに、注出ノズルを備える容器は内容物を詰替えつつ再利用されるが、詰替え用パウチは、一般的にはパウチとして再利用されるものではないため、内容物を詰替えた後に廃棄するのに適した簡易な形態に形成して省資源化と高い生産性を図ることが求められている。

【０００８】

本発明は、容器に設けられた注出ノズルを介して、詰替え用パウチから内容物を容器に容易に詰替えることを可能にすると共に、詰替え用パウチの省資源化と高い生産性を図ることを可能にするノズル付き容器、及び内容物の詰替え方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００９】

本発明は、少なくとも２枚のフィルムを重ね合わせて周縁部分を接合することにより袋状に形成されると共に詰替え用の内容物を収容する詰替え用パウチから、容器の注出ノズルを介して内容物を容器に詰替える際に用いる詰替え口部材が、注出ノズルを備える容器の注出ノズルの外周面に沿って着脱可能に装着されているノズル付き容器であって、前記詰替え口部材は、前記詰替え用パウチの注出口部の内部に着脱可能な部材からなり、前記注出口部に挿入されて前記注出口部を筒状の立体形状に保持する保形剛性を備えており、且つ前記容器の注出ノズルの外周面に沿った筒形状を有するノズル付き容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【００１１】

また、本発明は、前記ノズル付き容器の注出ノズルに装着されている詰替え口部材を用いた内容物の詰替え方法であって、前記詰替え用パウチの前記注出口部の先端部分を切り取ることによって注出開口を形成した後に、該注出開口を介して前記詰替え口部材を前記注出口部の内側に挿入配置し、前記容器の注出ノズルを前記詰替え口部材に挿入してこれの外周面を前記詰替え口部材の内周面に密着させると共に、前記詰替え用パウチを傾けることにより、収容された詰替え用の内容物を前記注出ノズルを介して前記容器に注出する内容物の詰替え方法を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【発明の効果】

【００１２】

本発明のノズル付き容器、又は内容物の詰替え方法によれば、容器に設けられた注出ノズルを介して、詰替え用パウチから内容物を容器に容易に詰替えることができるとともに、詰替え口部材の再利用によって詰替え用パウチの生産工程を複雑にすることなく、詰替え性と省資源化とを両立することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１３】

図１～図３に示す本発明の好ましい一実施形態に係るノズル付き容器１８に装着される詰替え口部材２０は、図５に示すように、注出ノズル１７を備える容器（ノズル付き容器）１８の注出ノズル１７の外周面に沿って着脱可能に装着されており、注出ノズル１７を備える容器１８に対して、詰替え用パウチ１０から液体洗剤等の内容物を詰替える際に、注出ノズル１７を容器本体１８ａの口首部１８ｂから取り外すことなく取り付けたままの状態で、当該注出ノズル１７を介して効率良くスムーズに内容物を注ぎいれて詰替えることができるように、詰替え用パウチ１０の注出口部１４に取り付けて用いられるものである。

【００１４】

すなわち、本実施形態では、詰替え口部材２０は、少なくとも２枚の側壁フィルム１１を重ね合わせて周縁部分を融着又は貼着等によって接合することにより袋状に形成されると共に詰替え用の内容物を収容する詰替え用パウチ１０から、容器１８の注出ノズル１７

を介して内容物を容器１８に詰替える際に、詰替え用パウチ１０の注出口部１４に取り付けて用いる口部材であって、詰替え用パウチ１０の注出口部１４の内部に着脱可能な、注出ノズル１７及び詰替え用パウチ１０とは別個の部材からなり、注出口部１４に挿入されて注出口部１４を筒状の立体形状に保持する保形剛性を備えており、且つ容器１８の注出ノズル１７の外周面に沿った筒形状を有している。

【００１５】

また、本実施形態では、容器１８の注出ノズル１７が先細り形状の注出ノズルとなっており、詰替え口部材２０の内周面は、この注出ノズル１７の先細り形状に沿った先太り状の筒形状を備え、詰替え口部材２０の外周面は詰替え用パウチ１０の注出口部１４の先太り形状の内周面に沿う筒形状を備えている。

【００１６】

さらに、本実施形態では、詰替え口部材２０に、挿入方向Ｘの後方側の開口縁部から外側に張り出して係止フランジ２３が設けられており、この係止フランジ２３は、詰替え口部材２０が注出口部１４に挿入される際に、注出口部１４の先端に形成した注出開口１６の開口縁部に当接係止されるようになっている。

【００１７】

本実施形態では、詰替え用パウチ１０は、図４に示すように、例えばポリエチレン等の可撓性のフィルム材料からなる一対の側壁フィルム１１と底壁フィルム１２とを、その周縁部分をシール接合部１５として融着等によってシールして袋状に一体化し、内容物として例えば詰替え用の液体洗剤等を収容する収容部１３を形成するものである。詰替え用パウチ１０の上端角部には、縁部から斜め上方に突出する注出口部１４が設けられており、この注出口部１４の先端部分１４ａを切り取り線１４ｂに沿って切り取ることにより、液体洗剤等の内容物を注出させるための注出開口１６が開口形成される。なお、本実施形態では、詰替え用パウチ１０は、先細り状の注出ノズル１７を介して内容物をさらに効率良く容器１８に注ぎ入れることができるように、注出突部１４の袋内部の収容部１３から注出開口１６に向かう流路１９は、好ましくは容器１８の注出ノズル１７の先細り形状に沿うように先太り状に形成されている。

【００１８】

また、本実施形態では、容器１８は、例えば特開２０００－１２８２０７号公報に記載の液体注出容器と略同様の構成を備えるものであり、図５に示すように、容器本体１８ａの口首部１８ｂには、注出ノズル１７を一体成形した本体キャップ２１が装着されている。また本体キャップ２１には、さらに計量キャップ２２が着脱可能に装着され、注出ノズル１７から計量キャップ２２に液体洗剤等の内容物を注入して計量しながら、容器本体１８ａに収容した内容物を適量づつ使用できるようになっている。さらに、注出ノズル１７は、計量キャップ２２に内容物を注入し易いように、先端側が絞られた先細り形状に形成されている。

【００１９】

ここで、例えば図５に示すような、容器本体１８ａの口首部１８ｂに本体キャップ２１を取り付け、注出ノズル１７を覆う計量キャップ（カバーキャップ）２２が本体キャップ２１に着脱自在に嵌合されている容器１８の場合は、本体キャップ２１を容器本体１８ａに着脱容易に取り付けると、例えば計量キャップ２２を本体キャップ２１から取外す際に本体キャップ２１が容器本体１８ａから外れたり、使用者が本体キャップ２１を注出ノズル１７が所定の位置となるように取り付けることが困難である等の問題があるため、本体キャップ２１は、使用者が容易に容器本体１８ａから取外すことができないように取り付けておくことが好ましい。また、詰替え用パウチ１０以外の例えば詰替え用ボトル容器等から、容器１８に誤った種類の内容物が詰替えられるのを防止するためにも、使用者が容器本体１８ａから本体キャップ２１を容易に取外すことができないようにしておくことが好ましい。

【００２０】

従って、容器本体１８ａに本体キャップ２１が取り付けられたままの状態で、本体キャ

ップ２１に一体成形された注出ノズル１７を介して詰替え用パウチ１０から容器本体１８ａへ内容物の詰替えを行えるようにすることが求められている。本実施形態では、詰替え用パウチ１０の注出口部１４に着脱可能な詰替え口部材２０を用いることにより、注出ノズル１７を介して詰替え用パウチ１０から容器本体１８ａへ容易且つスムーズに内容物の詰替えを行えるようする。

【００２１】

そして、本実施形態では、詰替え口部材２０は、例えば上述のような構成のノズル付き容器１８において、容器本体１８ａに収容された液体洗剤等の内容物が少なくなった際に、本体キャップ２１を口首部１８ｂから取り外すことなく容器本体１８ａに取り付けたままの状態で、先端側が絞られた先細り形状の注出ノズル１７を介して、詰替え用パウチ１０から容易且つ効率良く内容物を詰替えることができるように、詰替え用パウチ１０の注出口部１４に取り付けて用いられ、注出口部１４を筒状の立体形状に保持する保形剛性を備えており、且つ注出ノズル１７の外周面に沿った筒形状を有している。

【００２２】

すなわち、詰替え口部材２０は、図１～図３に示すように、例えば金属材料や合成樹脂により筒状に形成された立体成形品であって、例えば手の指で外側から押圧力を加えても、容易には押し潰されない程度の相当の保形剛性を備えている。本実施形態では、詰替え口部材２０は、容器１８の注出ノズル１７の先細り形状に沿った先太り状の筒形状を備えて形成されており、詰替え用パウチ１０の注出突部１４における袋内部の収容部１３から注出開口１６に向かう流路１９もまた、容器１８の注出ノズル１７の先細り形状に沿うように先太り状に形成されているので、詰替え口部材２０の外周面は、注出開口１６から注出口部１４の内側に挿入配置された際に、注出口部１４の内周面に密着する。

【００２３】

また、詰替え口部材２０には、詰替え用パウチ１０の注出口部１４への挿入方向Ｘの後方側の開口縁部から外側に張り出して、係止フランジ２３が環状に設けられている。詰替え口部材２０が注出口部１４に挿入される際に、この係止フランジ２３を、注出開口１６の開口縁部に当接係止することにより、詰替え口部材２０が注出口部１４に過度に挿入されるのを回避することが可能になる。さらに、詰替え口部材２０の外周面の軸方向中間部位には、これの周方向に延設して一条の環状の係止リブ２４が外側に突出して設けられている。この係止リブ２４を、注出口部１４の両側のシール接合部１５を内側から外側に向けて窪ませて設けた係止凹部２５に係止することにより（図３参照）、注出口部１４に挿入された詰替え口部材２０を位置決め保持すると共に、詰替え口部材２０が抜け落ちるのを効果的に回避することが可能になる。

【００２４】

そして、本実施形態では、詰替え口部材２０は、詰替え用パウチ１０から容器１８に内容物が詰替えられた後は、詰替え用パウチ１０の注出口部１４から取外されて、詰替え用パウチ１０や注出ノズル１７とは別の部材として再利用可能に保管することができる。また、詰替え口部材２０は、ノズル付き容器１８の本体キャップ２１の注出ノズル１７に、容器１８からの内容物の注出を阻害することなく着脱可能に装着した状態で、再利用のために保管することができる（図５参照）。

【００２５】

ここで、図６（ａ），（ｂ）は、詰替え口部材の他の形態を例示するものである。図６（ａ），（ｂ）の詰替え口部材３０ａ，３０ｂでは、周方向の少なくとも一部に介在して、軸方向Ｙに延在する弾性変形部３１が設けられている。これによって詰替え口部材３０ａ，３０ｂは、径方向に伸縮変形できるようになっている。すなわち、図６（ａ），（ｂ）の詰替え口部材３０ａ，３０ｂでは、容器１８の注出ノズル１７の外周面と詰替え用パウチ１０の注出口部１４の内周面との間に密着部を形成するように、周方向の少なくとも一部の軸方向Ｙに延在し周方向に伸縮可能な伸縮部を備えており、この伸縮部を伸縮させることにより、詰替え口部材３０ａ，３０ｂを径方向に圧縮又は拡福させることができるようになっている。また、図６（ａ）の詰替え口部材３０ａでは、伸縮部として係止フラ

ンジ２３の部分を含めて、軸方向Ｙの全長に亘って例えば蛇腹部からなる弾性変形部３１が設けられており、図６（ｂ）の詰替え口部材３０ｂでは、伸縮部として係止フランジ２３の部分を除いた筒状部分の全長に亘って例えば蛇腹部からなる弾性変形部３１が設けられている。

【００２６】

詰替え口部材３０ａ，３０ｂに弾性変形部３１が設けられていることにより、詰替え口部材３０ａ，３０ｂの外周形状を径方向に伸縮変形可能として、注出口部１４への装着を容易にすると共に、注出口部１４の形状に柔軟に対応させることが可能になる。なお、伸縮部は、弾性変形部３１の如くの蛇腹部によるものの他、弾性変形可能なゴム材料等を介在させたり、切欠き部分としてそのまま残置し、当該切欠き部分の幅を増減させて詰替え口部材３０ａ，３０ｂを径方向に伸縮変形させるようにすることもできる。また、伸縮部は、軸方向Ｙに延在していれば、例えば詰替え口部材２０の開口端から軸方向Ｙの途中部分まで設けるものであっても良く、この場合、詰替え用パウチ１０の注出開口１６へ挿入する側の開口端（外径が小さい方の開口端）の側にのみ設けることが有効である。

【００２７】

図７（ａ），（ｂ）は、詰替え口部材のさらに他の形態を例示するものである。図７（ａ）の詰替え口部材３２ａでは、詰替え用パウチ１０の注出口部１４への挿入方向Ｘの後方側の開口縁部から外側に張り出して設けられた係止フランジ３３は、環状に連続することなく、当該開口縁部に沿って周方向に断続的に設けられている。図７（ｂ）の詰替え口部材３２ｂでは、外周面の軸方向中間部位に外側に突出して設けられた係止リブ３４は、環状に連続することなく、周方向に断続的に設けられている。これらの断続的に設けられた係止フランジ３３や係止リブ３４によっても、注出開口１６の開口縁部に当接係止されて詰替え口部材３２ａが注出口部１４に過度に挿入されるのを回避する機能や、注出口部１４に設けた係止凹部２５に係止されて詰替え口部材３２ｂを位置決め保持する機能を、効果的に発揮することが可能になる。

【００２８】

上述の構成を備える詰替え口部材２０が装着された本実施形態のノズル付き容器１８では、図５に示すように、詰替え口部材２０は、先細り形状の注出ノズル１７を備える当該容器１８の注出ノズル１７の外周面に沿って着脱可能に装着され、当該容器１８と共にノズル付き容器として製品化される。また使用者は、例えば詰替え口部材２０を注出ノズル１７に装着したままの状態で、計量キャップ２２に内容物を適量注入しつつ計量しながら、容器本体１８ａに収容された内容物を使用する。

【００２９】

容器本体１８ａに収容された内容物が減少したら、詰替え口部材２０を注出ノズル１７から取り外し、詰替え用パウチ１０の注出口部１４に取り付けて内容物を詰替える。すなわち、詰替え用パウチ１０の注出口部１４の先端部分１４ａを切り取ることによって注出開口１６を形成した後に、図３に示すように、形成した注出開口１６を介して詰替え口部材２０を注出口部１４の内側に挿入配置する。また容器１８の注出ノズル１７を、注出口部１４に配置された詰替え口部材２０に挿入してこれの外周面を詰替え口部材２０の内周面に密着させると共に、この状態で詰替え用パウチ１０を傾けることにより、収容された詰替え用の内容物を注出ノズル１７を介して容器１８に注出する。

【００３０】

そして、本実施形態によれば、容器１８に設けられた注出ノズル１７を介して、詰替え用パウチ１０から内容物を容器１８に容易に詰替えることができる。すなわち、本実施形態によれば、詰替え口部材２０は、注出口部１４に挿入されて注出口部１４を筒状の立体形状に保持する保形剛性を備えており、且つ注出ノズル１７の外周面に沿った筒形状を有しているので、詰替え口部材２０を注出口部１４に挿入配置することにより、フィルム材料からなる変形しやすい注出口部１４による流路１９を、閉塞させることなく中空部として強固に保持することが可能になる。また、注出口部１４に挿入配置された詰替え口部材２０をガイドとして、注出ノズル１７を速やか注出口部１４に挿入装着することができる

と共に、注出ノズル１７の外周面を詰替え口部材２０の内周面に容易に密着させることができるので、内容物を漏れ出させることなく、安定した状態で効率良く詰替え用パウチ１０から容器１８に内容物を注ぎ入れて詰替えることが可能になる。

【００３１】

また、本実施形態によれば、詰替え用パウチ１０の省資源化と高い生産性を図ることが可能になる。すなわち、本実施形態によれば、フィルム材料からなる変形しやすい注出口部１４による流路１９を閉塞させることなく中空部として強固に保持するための詰替え口部材２０を、詰替え用パウチ１０に一体接合することなく、注出口部１４に着脱可能で、且つ詰替え用パウチ１０から容易に取り外して保管可能な別部材として形成するので、口部材を詰替え用パウチ１０に一体接合する製造工程を要することなく、詰替え用パウチ１０を一般のものと同様の簡易な構成で形成することが可能になり、また口部材を詰替え用パウチ１０と共に廃棄することなく再利用しながら用いることができるので、詰替え口部材２０を無駄に形成する必要がなくなり、これらによって、詰替え用パウチ１０の生産工程を複雑にすることなく、詰替え性と省資源化とを両立させることが可能になる。

【００３２】

なお、本発明は上記実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えば、詰替え用パウチに収容される内容物は、液体洗剤である必要は必ずしもなく、液体食品等のその他の液体や、粘体、粉体等のその他の流動性を有するものであっても良い。また、内容物が詰替えられる本発明のノズル付き容器は、内容物を計量する機能を有する液体注出容器に限定されることなく、注出ノズルを備えるその他の種々の容器とすることもできる。さらに、注出ノズルは先細り形状のものである必要は必ずしもなく、注出ノズルの外周面の形状に応じて詰替え口部材の形状を適宜変更することができる。

【００３３】

さらにまた、例えば図９に示すように、詰替え口部材２０を、収容部１３から注出開口１６に向かう流路１９’が先太り状に形成されない詰替え用パウチ１０ｂの注出口部１４’に挿入装 着して用いることもできる。このような場合、詰替え口部材２０の外周面と注出口部１４’の内周面との間に隙間が生じることになるが、例えば係止フランジ２３によって注出開口１６の周縁部分を閉塞することにより内容物の漏れ等を回避することができるので、上記実施形態と略同様の作用効果が奏されることになる。

【図面の簡単な説明】

【００３４】

【図１】本発明の好ましい一実施形態に係るノズル付き容器に装着される詰替え口部材の斜視図である。

【図２】本発明の好ましい一実施形態に係るノズル付き容器に装着される詰替え口部材を詰替え用パウチの注出口部に取り付ける状態を説明する要部斜視図である。

【図３】本発明の好ましい一実施形態に係るノズル付き容器に装着される詰替え口部材を用いて詰替え用パウチから容器に内容物を詰替える状態を説明する要部断面図である。

【図４】本発明の好ましい一実施形態に係るノズル付き容器に装着される口部材が注出口部に取り付けられる詰替え用パウチを例示する側面図である。

【図５】本発明の好ましい一実施形態に係るノズル付き容器を例示する要部断面図である。

【図６】（ａ），（ｂ）は、詰替え口部材の他の形態を例示する斜視図である。

【図７】（ａ），（ｂ）は、詰替え口部材のさらに他の形態を例示する斜視図である。

【図８】（ａ），（ｂ）は、詰替え口部材の他の使用形態を例示する要部斜視図である。

【図９】詰替え口部材のさらに他の使用形態を例示する要部斜視図である。

【符号の説明】

【００３５】

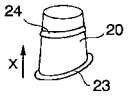
１０，３０ａ，３０ｂ，３２ａ，３２ｂ　詰替え用パウチ

１１　側壁フィルム

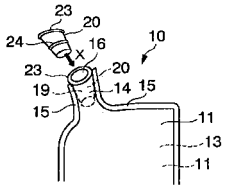
１２　底壁フィルム

１３　収容部
１４，１４’　注出口部
１４ａ　注出突部の先端部分
１４ｂ　切り取り線
１５　シール接合部
１６，１６’　注出開口
１７　注出ノズル
１８　ノズル付き容器
１８ａ　容器本体
１８ｂ　口首部
１９，１９’　流路
２０　詰替え口部材
２１　本体キャップ
２２　計量キャップ
２３，３３　係止フランジ
２４，３４　係止リブ
２５　係止凹部
３１　弾性変形部
Ｘ　挿入方向
Ｙ　軸方向

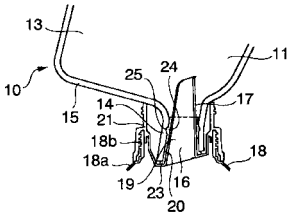
【図１】



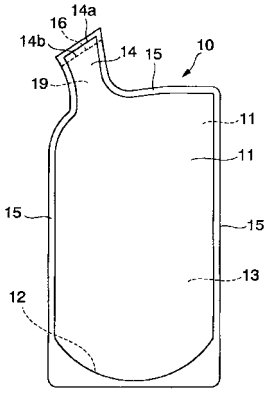
【図２】



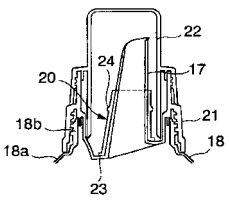
【図３】



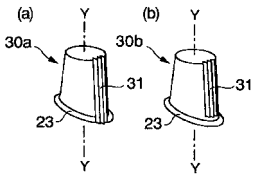
【図４】



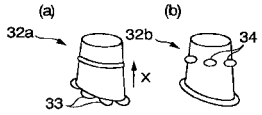
【図５】



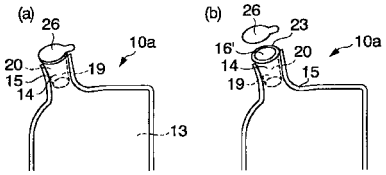
【図６】



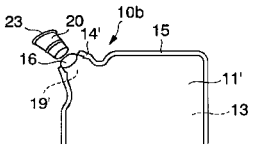
【図７】


(a)
(b)
32a
32b
34
X
33

【図８】


(a)
26
10a
20
15
14
19
13
(b)
26
23
16'
14
19
20
10a
15

【図９】


23
20
14'
10b
15
16
19'
11'
13

フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００３－２６７４０３（ＪＰ，Ａ）
特開平０７－３１５３９５（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－１５７７４７（ＪＰ，Ａ）
特開平１１－０７９１９５（ＪＰ，Ａ）
実開昭５６－０２６６４６（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６５Ｄ　３３／３８
Ｂ６５Ｄ　３３／１６